



野島の 不思議解明 最前線 4月1日号 文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2014

ツバメの画像を加工して線をいれてみました。速く見えますか？ こればかりは画才にもよってしまいますね。撮影●内田博

コシアカツバメの縦縞は速さ擬態？

～ ツミは縦縞のあるツバメを襲わない～

圧倒的な速さは、それだけですべてを凌駕してしまいます。メイウエザー（ボクシング）はそのスピード故、無敗で5階級を制覇しました。一度引退して、復帰した37歳ですが、今も誰も連勝を止められそうになく、有力選手も対戦を避けているようです。

鳥の世界のメイウエザーといえばアマツバメ類が思いうかびます。巣の入り口で減速するところをオオセグロカモメが捕食したという報告がありますが（対馬 2002）、通常飛行している時は、誰も捕らえることはできず、アマツバメを猛禽が襲っているところは見たことありません。このくらい「実力」があると、猛禽類も襲おうとしないのでしょうかね。

では、ツバメだとどうでしょう。ツミを観察していると、ツバメを襲うのを見ることはありますが、捕らえることはほとんどありません。「あいつは速すぎる」と、もうちょっと実力を評価してもらえたら、襲われることもなくなるのだと思います。

では、猛禽類に速く見ってもらえるためにどうしたら良いでしょう。漫画などではスピードを表現するのに、動いている方向に像をブレさせたり、線を引いたりしますよね。よく考えるとコシアカツバメには、それにあたりそうな線が胸にあります。実際にこの縦線がタカが襲うかどうかの判断に影響していることが明らかになったので、紹介いたします。

その研究は、神山とぼくが昨年行なった研究です。ツミの繁殖地にツバメとコシアカツバメの剥製を設置し、それをツミが襲うかどうかを記録しました。

さらにツバメの胸にコシアカツバメ状の線を入れた場合、コシアカツバメの胸の線を消した場合についても実験しました。すると、ツミは、ツバメの場合でもコシアカツバメの場合でも、胸に線のないものは襲うけれども、線のあるものはあまり襲わないことがわかりました。「スピード効果線」は実際にツミが襲うかどうかの判断に影響しているようです。

では、なぜこのような効果があるにもかかわらず、ツバメには線がなく、コシアカツバメにはあるのでしょうか？ 1つはコシアカツバメの方が体重が重くスピードと小回りに劣るために「擬態」の必要性が高いためかもしれません。しかし、これはツバメに線がないことの説明にはなりません。ツバメは尾羽が長い個体がつがい相手として選択されますが、その説明として尾が長いハンデにも関わらず元気でいられるのは優秀だからだと言われます。縦線についても同様に、それがなくても捕食されないのは優秀な証拠で、無い方が異性に好まれるのでしょうか？

縦線は捕食する側にとっても効果的かもしれません。縦線で速く見せることによって獲物があきらめてくれるかもしれないからです。成鳥より実力に劣るタカの幼鳥の胸の模様は縦縞です。今後、タカの縦縞についても明らかにしていきたいと思います。

紹介した論文

Koyama K. & Ueta M. (2014) Red-rumped swallow mimic "speed king"? USO 800: 14-21.